

社会福祉協議会地域福祉活動計画の策定について

1 概要

地域福祉活動計画は江東区地域福祉計画と連携し、地域住民、関係団体等が地域福祉推進に主体的に関わるための具体的な活動計画である。

地域住民、ボランティア・NPO等の住民参画のもと、地域課題の明確化と解決策の協議を行い、その解決に向けた具体的な行動と関係機関・団体の役割分担が明示されたもの。

現行の第四次江東区地域福祉活動計画の計画期間が令和元年度から5年度までとなっており、現在、令和6年度からとなる第五次計画の策定を進めている。

2 基本理念

第4次計画までの基本理念は、「区民一人ひとりが住みなれた地域で、だれもが参加し、支えあい、安心してともに暮らせる「福祉のまちづくり」」。

今年度策定を進めている第5次計画の基本理念は、江東区地域福祉計画と合わせ「一人ひとりの尊厳が守られ、地域でともに支えあい、誰もが笑顔で安全に暮らせるまち」とする。

3 計画期間

令和6年度から令和11年度 6か年計画

4 計画の推進

地域の声を聴くために5圏域でまちづくり話し合いひろばを実施。ひろばに参加したメンバーを含め地域の方と協力しながら計画を推進する。

計画策定後も各地域でまちづくり話し合いひろばを開催し、地域の意見を伺った上で、推進評価委員会へ諮る。

5 計画体系図の変更

第4次地域福祉活動計画事業体系図から、住民や社協の役割を明確化する体系図へ変更する。地域の声を反映する「目指す地域の姿」「活動目標」「個人・地域でできること」「団体でできること」のほか、地域主体の取り組みに連携

して「社協でできること」「社協に期待すること」も掲げる。

6 計画のPDCAサイクル

ア 第4次計画「C h e c k（評価）」については、令和元年度から令和4年度の4か年評価を記載する。

イ 第5次計画「C h e c k（評価）」の考え方については、現行計画の地域福祉活動計画体系図が異なるため新たに作業部会で検討する。

まちづくり 話し合い ひろば

参加 19名

2023.4.19

砂町文化センター

13:30～15:30

「まちづくり話し合いひろば」では、日頃から感じている地域の福祉課題や強みを念頭においていただきながら、「福祉のまちづくり」のアイデアを出し合います。そのアイデアを第5次地域福祉活動計画の中に盛り込むことで、実際の活動へとつなげ、広げていくための機会とします。



ワークショップ 地域のいいところ

1班



- ① 商店が多い。砂町銀座の存在もとても大きい。スーパーもいくつかある。
- ② 緑が多い。河川が多く散歩に恵まれており公園もたくさんある。
- ③ 交通の便が良い。鉄道は東西の線だけしかないが、南北のバスの線がとても便利。
- ④ 社会資源として、デイサービスや長寿サポートセンター、リハビリ施設が多い。
- ⑤ マンションと一戸建てとがバランス良く建っている。

- ① 交通の便の良いところ。
- ② 砂町銀座と新しいショッピングセンター、団地と一戸建て等、普通は交わらないであろう者同士がうまく共存している。
- ③ バスが便利。小名木川沿いの散歩が素敵。

住んでいて感じないこと・気づかないことに、他の方の意見を伺って気づくことがあり、話し合えて良かったと思った。



2班

3班



- ① 環境。緑がたくさんあり散歩道がたくさんある。
- ② 住みやすさ。子どもの声が多くなった。下町で高齢者の方が住みやすい。昔からの砂町銀座もある。
- ③ 人柄の良さ、人情深さ。たまにお隣さんが風邪を引いたと聞けば、そのお隣さんが煮物を持っていってくれたりするような昔の長屋のような生活の場所もある。
- ④ 気さくな人が多い。話に楽しく乗ってくれる。

4班



- ① 交通の便が良い。バスがあって移動しやすく、買い物と病院に行くのに困らない。区内だけでなく区外へ行く場合にも動きやすい。
- ② 公園に必ずトイレがある。子ども・高齢の方が出かける時にどこにトイレがあるか分からないと安心して出かけられないという方でも移動しやすい。
- ③ 緑が多く水辺も緑豊か。
- ④ 大きなお世話が通用する地域特性がある。地域行事がたくさんある。人の関わりが密。隣近所で助け合ったり、お母さんがしばらく休んで留守番をしているお子さんの様子を周りで交代で見たりする関わりがある。

- 社会資源。買い物しづらい地域がある。細い道が多く夜になると暗い。障害のある方が暮らせるグループホームが少ない。
- 火の用心で回っていると「うるさい」と言って110番される等人情が通じない人もいる。
- 交通の便が悪い場所もどうしてもある。
- インターネットを使えない高齢者が多い。
- 銭湯が減っている。
- 砂町銀座の貸店舗が増えている。
- 単身向けの家賃の高い賃貸マンションが増えている。比較的金の払える若い方は賃貸マンションに入るが、地域に根ざして何かしようという考え方はない。
- 北砂五丁目団地等URにインド人のお子さんが多いが、日本の学校に通っていないのでなかなか日本になじめない。
- 人とのつながり。マンションの自治会の高齢化、人とつながっていない、ボランティアの担い手として次の世代が出てこない。
- 居場所が欲しい。子育てや高齢化問題等まるごとどこに頼ったらいいのかというところ、社協に頑張ってもらいたいと思うが、よろず相談の受け手が無い。



まとめ



本日は、「地域のいいところ」と「地域の困りごと」をセットで考えました。そうすることで「地域の強みや」「地域の弱み」を浮かび

上がらせることができました。今回を基に、6月21日の2回目では、他の区全体の調査などの課題と突き合わせて振り返りを行います。

今日の「地域のいいところ」と「地域の困りごと」で出たご意見をもとに、次回2回目のワークショップでは「6年後にこうなったらいいなあ」と思う地域の目指すべき姿のビジョンを挙げていただき、共有し、個人でできる事、地域でできる事の目標を導き出したいと思います。

地域福祉活動計画担当 井上博



強調したいのは、むしろここで出てこなかった課題が、将来自分たちもぶつかった時に困ってしまう課題であるし、今地域の中で排除されている問題であるということ。

私たちが今やろうとしていることは一言で言えば「自治」。自分たちの望む暮らしは自分たちで作っていくということ、地域福祉とはそういうことだと思っています。その一歩として、今回「地域を見つめ直す」ということをしました。これが第2回以降のひろばにつながっていくんだろうと思います。社協職員の方たちがここからは「住民主体」で地域づくりをしていく、そして社協も一緒にやっていくという強い思いで、陰で努力していらっしゃるの、ぜひ拍手でたたえて差し上げて欲しい。

高崎健康福祉大学
健康福祉学部 岡田哲郎 講師



》》》 第1回深川南部・臨海部 報告書

まちづくり 話し合い ひろば

深川南部 8名
臨海部 6名

2023.4.26

豊洲シビックセンター
13:30～15:30

「まちづくり話し合いひろば」では、日頃から感じている地域の福祉課題や強みを念頭においていただきながら、「福祉のまちづくり」のアイデアを出し合います。そのアイデアを第5次地域福祉活動計画の中に盛り込むことで、実際の活動へとつなげ、広げていくための機会とします。



ワークショップ 地域のいいところ

深川南部

1班



- ①景観がおしゃれ。海が見える。情報発信の注目スポットが多い。水辺が多く朝焼けがきれい。フレンドリーなカモメもいる。
- ②人が親切。知らない人でも気軽に話しかけてくれる。公園も多く子どもがのびのびと過ごせ、子どもの声がよく聞こえる。
- ③コンビニが近く道が広くて利便性が高い。銀座に近い。

2班

- ①古い一軒家や下町情緒のあるところと新しい町が混在しているところ。町会が充実してお祭りがあるところ。新しい街では若い人が多く新しいワクワクするコミュニティができている。
- ②環境。運河があったり海が近かったりするところ。木場公園、ぐるり公園等公園が多いところ。スポーツ施設、文化センターが充実している。総合病院もあり、大学が5つもある。新しい未来が作れる街。
- ③イベントが多い。木場公園の江東区民まつりには何十万という人が来る。避難所としても良い公園。



臨海部

3班



- ①新しいマンションの建設により、子どもの数が増え小学校が4つになった。子どもがたくさんおり、それは将来的には良いことなのだと思う。
- ②この豊洲地区は都市計画がしっかりしている。計画通りに街が作られていっているので道路がしっかりしていて歩道が広い。子ども連れでの散歩、運河沿いの散歩もでき、マンションは耐震構造で防災上の問題が少ない。
- ③生活に便利なスーパーが5つあり、どの店も歩いて2～3分ぐらいの範囲にありコンビニもたくさんある。
- ④交通の便が良い。羽田行きのリムジンが30分くらいで来るバス停もある。

深川南部

- コミュニティの希薄化。孤立している家族が多い。若い世帯が増えてお互いが関わり合う機会が少なくなった。
- 大学が5つあるが、大学と地域との交流がもっと深くあると、豊かな情報が地域の皆さんにも届きお互いに良い関係が築けるのではないか。
- 区役所の前のガソリンスタンドがいつまでも使われないうまま古くなり、そこへゴミが投げ捨てられたりして環境が悪くなっている。
- 家賃が高く障害者施設の参入がかなわない。障害のある方が気楽に相談ができる場所がほしい。高齢者や障害者の方々が気楽に寄れるカフェ、若い親子が気軽に相談できる居場所があると良い。
- 子どもたちが安全に安心して公園で遊べない。不審者情報が放課後の時間帯に多く、警察が巡回しているとはいえ心配。人口の割に交番が少ない。
- 企業との連携が進んでいない。また、企業と住宅が混在しているエリアでは、朝や夕方の通勤の時間帯に、歩いていくサラリーマンたちの間を縫うように信号を渡らなければならない。

臨海部



- マンション居住者と都営住宅居住者との交流がない。
- 豊洲文化センターを利用しようとも手続きが難しい・利用のハードルが高い・これから何か始めようと思っても仲間集めが難しい。 →一軒家があれば、借りられるか(そもそもない)。



本日は、「地域のいいところ」と「地域の困りごと」をセットで考えました。そうすることで「地域の強みや」「地域の弱み」を浮かび上

がらせることができました。今回を基に、6月28日の2回目では、他の区全体の調査などの課題と突き合わせて振り返りを行います。

今日の「地域のいいところ」と「地域の困りごと」で出たご意見をもとに、次回2回目のワークショップでは「6年後にこうなったらいいなあ」と思う地域の目指すべき姿のビジョンを挙げていただき、共有し、個人でできる事、地域でできる事の目標を導き出したいと思います。

地域福祉活動計画担当 井上博



皆さまのお話を聞いていると、コインの裏表のように、プラスだと思っていたことがマイナスに反転していった。きらびやかな雰囲気の中で孤立が生まれていたり、所在ない人がいたり、住んでいる人ならではの住みに

くさや不満がたくさん話され、新鮮に感じました。これをどうプラスに転換していくか。古いものと新しいものを融合させ、新陳代謝を繰り返してきたこの地域の中で、異質な要素を掛け合わせて価値を生み出していく。集まっている方々も一人ひとりが意外性を持っていて、文化の担い手であると考え、このように人が出会って継続的に話し合い、つながっていく場自体が貴重になるのだなと感じました。2回目以降のひろばで、皆さまがどんな地域、もっと大きな社会の将来像を描いていくのかに注目したいと思います。

高崎健康福祉大学
健康福祉学部 岡田哲郎 講師



第1回城東北部 報告書

まちづくり 話し合い ひろば

参加 21名

2023.5.17

総合区民センター

13:30~15:30

「まちづくり話し合いひろば」では、日頃から感じていらっしゃる地域の福祉課題や強みを念頭においていただきながら、「福祉のまちづくり」のアイデアを出し合います。そのアイデアを第五次地域福祉活動計画の中に盛り込むことで、実際の活動へとつなげ、広げていくための機会とします。



ワークショップ 地域のいいところ

1班



①街の環境：自然、公園、買い物できる場所が多い。②交通：バスが走っていて交通の便が良い。③町会・自治会：まとまっていてコミュニケーションが取れている。④助け合い：高齢者のサポート、ゴミ捨ての助け合いがきちんとできている。⑤人とのつながり：すごくできている。下町の情報、インドをはじめとした外国の方ともコミュニケーションが取れている。⑥施設：図書館や児童館が整っている。⑦食...おいしいお店が多い。夕方になるとスパイスの良い香りが漂う。

①人との関わり・人情：人柄が良い。共助の心がある。②交通：便が良い。外出時にはバスや電車、高速道路が近くて便利。③公園・緑：JKKの住宅の中にも子どもが遊べる広い公園がある。通りから中に入れば静か。④買い物...利便性が良い。⑤施設・自治会...70%を超える加入率の自治会もある。少子化なのに保育園・幼稚園が合わせて3つもあるので子育て世帯が多く移り住んでいる。

2班



3班

①利便性：総武線と都営新宿線と横に2本鉄道あり、縦はバスが頻繁に走っていて便利。大島は横に長いので駅が3つもありいい場所。②生活：スーパー、商店がたくさんあって生活がしやすい。亀戸には大型の商店も充実している。高齢者の方も多く元気に過ごしている。戸建てを買った若い方も増え小学生が増えている。昔ながらの下町情緒、近所付き合いも残っている。③施設：区の施設が充実している。病院、クリニック、学校、保育園等も多い。

4班



①人との触れ合い：挨拶がすぐに返ってくる。野菜の育て方を聞いたらすぐに教えてくれる。②商業：発展している。商店街がしっかりしていて買い物が便利。銭湯がある。商店街や地域の会社がしっかりしているために、会社がスポンサーになって中央公園で花火をあげたりする等の地域貢献が生まれているのではないか。③街・環境：亀戸天神、羅漢寺、梅屋敷といった歴史的な環境もしっかりと残っている。元々このあたりの地域は浮世絵等にも描かれたように、江戸の中心地から1日で楽しみに来て日帰りで帰ってくるというエリアだったのではないか。発展しつつのんびりしている雰囲気もあるのは、そのような歴史的な背景もある。

- 高齢になってごみ捨てるルールを守れなくなった方や、若くて守らないまた、外国人の方のごみ出しがうまくいっていない。
- 空き家がそのままになっている。また、集合住宅・雑居ビルの老朽化による治安悪化の懸念がある。
- シェアハウスになった元空き家の住民とのコミュニケーション不足。
- 集合住宅が増えている一方、若い人等は挨拶ができない。
- 独居高齢者が多くなりコミュニティづくりが難しくなってきた。
- 外国人とのコミュニケーションがとりにくい。
- 商店・銭湯の閉鎖で不便さが出てきた。
- マンション内の住民同士でも挨拶をしても返事が返ってこなかったりする。関わりが薄くなっている。災害時助け合えるのか不安。。
- 町会・自治会...会長・役員等のなり手がおらず負担が増えたり組織が続かなくなっていたりする。
- 高齢者や障害者にとって水害での避難は不安があると思われる。



まとめ



本日は、「地域のいいところ」と「地域の困りごと」をセットで考えました。そうすることで「地域の強みや」「地域の弱み」を浮かび

上がらせることができました。今回を基に、7月19日の2回目では、他の区全体の調査などの課題と突き合わせて振り返りを行います。

今日の「地域のいいところ」と「地域の困りごと」で出たご意見をもとに、次回2回目のワークショップでは「6年後にこうなったらいいなあ」と思う地域の目指すべき姿のビジョンを挙げていただき、共有し、個人でできる事、地域でできる事の目標を導き出したいと思います。

地域福祉活動計画担当 井上博



印象深かったのは、とても急激に発展していく街を支える伝統があったり、1グループの渡辺さんが外国籍の住民の方を「宝」と表現されていて、新しいもの・異質なものと、旧来のものが反発し合わずに融合し合っていく動きがあるのだと感じた。そこで緩衝材になっている動き、土台になっている動きがきつこの地区の、そして江東区の宝になっているのだと改めて思った。社会資源はこれから爆発的に増えていくものではないが、今あるものをニーズに合うようにリメイクしたり、組み合わせたりする中でどのように課題を乗り越えていくか、社協や専門職の方も一緒に、これから新しい変化や地域のビジョンを第2回以降に皆さまがどう作っていくのが注目したいと思う。引き続きよろしく願います。

印象深かったのは、とても急激に発展していく街を支える伝統があったり、1グループの渡辺さんが外国籍の住民の方を「宝」と表現されていて、新しいもの・異質なものと、旧来のものが反発し合わずに融合し合っていく動きがあるのだと感じた。そこで緩衝材になっている動き、土台になっている動きがきつこの地区の、そして江東区の宝になっているのだと改めて思った。社会資源はこれから爆発的に増えていくものではないが、今あるものをニーズに合うようにリメイクしたり、組み合わせたりする中でどのように課題を乗り越えていくか、社協や専門職の方も一緒に、これから新しい変化や地域のビジョンを第2回以降に皆さまがどう作っていくのが注目したいと思う。引き続きよろしく願います。



高崎健康福祉大学
健康福祉学部 岡田哲郎 講師

第1回深川北部 報告書

まちづくり 話し合い ひろば

参加 20名

2023.5.24

千石地区集会所

13:30~15:30

「まちづくり話し合いひろば」では、日頃から感じている地域の福祉課題や強みを念頭においていただきながら、「福祉のまちづくり」のアイデアを出し合います。そのアイデアを第5次地域福祉活動計画の中に盛り込むことで、実際の活動へとつなげ、広げていくための機会とします。



ワークショップ 地域のいいところ

深川北部

1班



①お祭り：今年8月13日に本祭りがあり盛り上がる。町内が連携してコミュニケーションが取れる。

②近所付き合い・下町の良さ。

③交通の便：有楽町線の延伸。千石2丁目に駅が出来る。東西線も便利。人形町が近い。

④施設・公園：清澄白河を中心に、現代美術館、木場公園等。スーパーも多い。水辺を散歩できる。インターナショナルスクールもあり国際的。

⑤社協：近くて相談しやすい。

2班

①食：おいしくて安い店が多い。

②子ども・若者：若い夫婦が協力的に見える。「本当か？そんなのいないぞ？」という話も出たが...

③暮らし：長く住んでいる方から下町の雰囲気を感じられるという話が結構出た。

④環境：緑・公園・水路が多く夜はきれい。

⑤利便性：交通の便が良く道が広い。スーパー・コンビニが多い。

一方で潰れている店も多いよねという話もあった。



3班



①人とのつながり：人付き合いが残っている。おすそ分けがある。ゲートボールに100歳の方が参加されていて、みんなその方を目標に頑張っている。冬木ではお祭りをやるとお金が集まる。お金持ちが多い。

②交通の便：基盤の目になっていて道が分かりやすい。

③環境：水辺がある。公園がある。新しいカフェがたくさんできている。

④施設：公共施設が多い。文化センター等では各種講座が多い。相撲部屋も多い。生涯学習も含めて住みやすい街ではないか。

- 外国籍の方ごみの分別マナーができていない。難しい面もあるのかもがと思う。
- 信号無視をする人が多い。車の赤信号無視も1度見たことがある。
- 耐震工事の必要な古い民家が多いのではないか。
- 千石駅の開発が心配。
- 障害のある方の住居が困る(足が悪いのに2階に住んでいる等)。
- 建て壊しによる立ち退きが多い。また、家賃が高い。
- 人付き合いが疎遠になっている。新しい住民とのコミュニケーションが難しい。
- 脚も痛いし腰も痛い中、もし何かあった時にどのように避難すれば良いか不安。
- 個人商店がひっそりと閉店し少なくなっている。
- 障害者が働ける場所が少ない。
- 障害のある方との付き合い方が分からない。
- 町会・自治会活動に若い世代の人が入ってこない。老人クラブも含め役員のなり手がいない。将来・老後への不安がある。
- 世代間の価値観の違い。
- 遊び場でもあれをやってはだめ、これをやってはだめといった制約事項が多い。
- 世代間の連携がうまくいかないと持続しないため若い世代が入ってこれるような手立てが必要。
- ネット社会になっていることにより個人情報簡単に扱われ簡単に漏洩し色々な問題が起こるため、皆さん過敏になっていてなかなか打ち解けられない。



本日は、「地域のいいところ」と「地域の困りごと」をセットで考えました。そうすることで「地域の強みや」「地域の弱み」を浮かび上

がらせることができました。今回を基に7月26日の2回目では、他の区全体の調査などの課題と突き合わせて振り返りを行います。

今日の「地域のいいところ」と「地域の困りごと」で出たご意見をもとに、次回2回目のワークショップでは「6年後にこうなったらいいなあ」と思う地域の目指すべき姿のビジョンを挙げていただき、共有し、個人でできる事、地域でできる事の目標を導き出したいと思います。

地域福祉活動計画担当 井上博



これまでは区の文化センターでの開催で、このような集会所で行うのは今回が初めてであった。やはり雰囲気が変わって、皆さまアットホームに意見交換をされていた。暮らしの文化や

日常を感じながら意見交換をやるのが良いと感じた。これから人ももっと流動化して未知の事態に直面していく中で、共通の課題としては今の暮らしのありようをどう持続可能なものにしていくか。既存の発想を飛び越えて、今つながっていない方ともつながって、というところが根っこの課題なのかなと思った。地域づくりで忘れてはいけないのは、この場にいない他者にどう目を向けるかということと、こういう場で出てこないものの中に本当の課題があるという想像力が大事。そのようなことを考えながら2回目以降のビジョンづくり、この地域を6年後どうしていきたいか、その方法を皆さまがどうつくっていくのかに注目したい。

高崎健康福祉大学
健康福祉学部 岡田哲郎 講師

